

第2回 配列・連想配列

課題2 - 1

★第1段階（ファイル名：kadai02_1.php）

配列 \$fruits を作成し、下記の実行結果が出るようにしましょう。

\$fruits	りんご	バナナ	莓	ぶどう	キウイ
	[0]	[1]	[2]	[3]	[4]
	↑				
	添え字(キー)は必ず0から始まります。				

■実行結果（sample02_1.php 第1段階）

※赤字の部分は配列の中身が表示されるようにしましょう。（文字列「莓」の直打ちはNG）

配列 fruits の3番目の値は「莓」です。

★第2段階（ファイル名：kadai 02_1.php）

配列 \$fruits に「パイナップル」を追加しましょう。配列の表示には print_r を用いること。

■実行結果（sample02_1.php 第2段階）

※赤字の部分が今回追加された実行結果です。

配列 fruits の 3 番目の値は「苺」です。

```
Array
(
    [0] => りんご
    [1] => バナナ
    [2] => 苺
    [3] => ぶどう
    [4] => キウイ
    [5] => パイナップル
)
```

★第3段階（ファイル名：kadai02_1.php）

配列 \$fruits の 1 番目を「スイカ」に上書きし、内容の確認表示をしましょう。

※課題2－1 第2段階 のコードはそのまま残しておくこと。

その後に、今回の第3段階のコードを追記。

最終的には、配列 1 番目の値の上書き前と、上書き後の実行結果が正しく表示されていること。

※配列の要素の始まる番号（インデックス）に注意してください。

1 番目 = 1 ではありません。

■実行結果（kadai02_1.php 第3段階）

※赤字の部分が今回追加された実行結果です。

配列 fruits の 3 番目の値は「苺」です。

Array

```
(  
    [0] => りんご  
    [1] => バナナ  
    [2] => 苺  
    [3] => ぶどう  
    [4] => キウイ  
    [5] => パイナップル  
)
```

配列 1 番目を上書き

Array

```
(  
    [0] => スイカ  
    [1] => バナナ  
    [2] => 苺  
    [3] => ぶどう  
    [4] => キウイ  
    [5] => パイナップル  
)
```

課題 2 - 2

★第 1 段階（ファイル名：kadai02_2.php）

課題 2 - 1 で作成した配列 \$fruits は 1 次元配列でした。

ここでは、\$fruits の他に、一次元配列の \$vegetable を作成しましょう。

■配列 \$vegetable

\$vegetable	キャベツ	人参	ピーマン	茄子	かぼちゃ
	[0]	[1]	[2]	[3]	[4]

配列 \$fruits と \$vegetable を var_dump 関数を用いて表示してください。

実行結果 (kadai02_2.php 第1段階)

```

array(5) {
    [0]=>
    string(9) "りんご"
    [1]=>
    string(9) "バナナ"
    [2]=>
    string(3) "苺"
    [3]=>
    string(9) "ぶどう"
    [4]=>
    string(9) "キウイ"
}
array(5) {
    [0]=>
    string(12) "キャベツ"
    [1]=>
    string(6) "人参"
    [2]=>
    string(12) "ピーマン"
    [3]=>
    string(6) "茄子"
    [4]=>
    string(12) "かぼちゃ"
}

```

★第2段階（ファイル名：kadai02_2.php）

配列 \$fruits と \$vegetable を多次元配列 \$food に格納し、2次元配列の内容をブラウザで表示してください。

■配列\$food

	[0]	[1]	[2]	[3]	[4]
[0]	りんご	バナナ	苺	ぶどう	キウイ
[1]	キャベツ	人参	ピーマン	茄子	かぼちゃ

実行結果 (kadai02_2.php 第2段階)

【※この例では、第1段階の実行結果部分は省略】

```
array(2) {  
  [0]=>  
  array(5) {  
    [0]=>  
    string(9) "りんご"  
    [1]=>  
    string(9) "バナナ"  
    [2]=>  
    string(3) "莓"  
    [3]=>  
    string(9) "ぶどう"  
    [4]=>  
    string(9) "キウイ"  
  }  
  [1]=>  
  array(5) {  
    [0]=>  
    string(12) "キャベツ"  
    [1]=>  
    string(6) "人参"  
    [2]=>  
    string(12) "ピーマン"  
    [3]=>  
    string(6) "茄子"  
    [4]=>  
    string(12) "かぼちゃ"  
  }  
}
```

★第 3 段階（ファイル名：kadai02_2.php）

多次元配列 2 行 3 列目の内容を表示しましょう。

実行結果（kadai02_2.php 第 3 段階）

【※この実行結果例では、第 2 段階までの実行結果部分は省略】

\$food 2 行 3 列目は、ピーマンです。

課題 2 - 3

★第 1 段階（kadai02_3.php）

下図のような連想配列を宣言し、配列の内容を表示（var_dump）しましょう。

■連想配列 \$fruits

\$fruits	220	110	490	550	160
	apple	banana	strawberry	grape	kiwi

実行結果のように、きちんとキーと価格（価格は int 型）が表示されていることを確認してください。

実行結果 (kadai02_3.php 第1段階)

```
array(5) {  
    ["apple"]=>  
    int(220)  
    ["banana"]=>  
    int(110)  
    ["strawberry"]=>  
    int(490)  
    ["grape"]=>  
    int(550)  
    ["kiwi"]=>  
    int(160)  
}
```

★第2段階 (kadai02_3.php)

下図のような連想配列を作成しましょう。

多次元配列の構文と連想配列の構文を組み合わせ、時間が掛かってもいいので、作成してみてください。

結果は var_dump で表示しましょう。

■連想配列 \$food

\$fruits	220	110	490	550	160
	apple	banana	strawberry	grape	kiwi
\$vegetable	130	80	120	160	240
	cabbage	carrot	greenPepper	eggplant	pumpkin

実行結果のように表示されることを確認してください。

実行結果 (kadai02_3.php 第2段階)

food の内容を表示

```
array(2) {  
  ["fruits"]=>  
  array(5) {  
    ["apple"]=>  
    int(220)  
    ["banana"]=>  
    int(110)  
    ["strawberry"]=>  
    int(490)  
    ["grape"]=>  
    int(550)  
    ["kiwi"]=>  
    int(160)  
  }  
  ["vegetable"]=>  
  array(5) {  
    ["cabbage"]=>  
    int(130)  
    ["carrot"]=>  
    int(80)  
    ["greenPepper"]=>  
    int(120)  
    ["eggplant"]=>  
    int(160)  
    ["pumpkin"]=>  
    int(240)  
  }  
}
```

★第 3 段階（kadai02_3.php）

配列\$fruits のキーと値を、foreach を用いて、表示（echo）してみましょう。

実行結果（kadai02_3.php 第 3 段階）

【第 3 段階】 配列\$fruits の中身を foreach で順番に表示します。

apple : 220 円

banana : 110 円

strawberry : 490 円

grape : 550 円

kiwi : 160 円

★第 4 段階（kadai02_3.php）

配列\$food のキーと値を、種別ごとに foreach を用いて、表示（echo）してみましょう。

ヒント：2 重ループです。

まず、種別（fruits と vegetable）でループを回しましょう。

続いて、キーと値、すなわち商品名と価格が表示されるように中のループを作成しましょう。

表示形式は実行結果のように、「商品名」や「円」など分かり易いように文言を追加してください。

※実行結果は次のページです。

実行結果 (kadai02_3.php 第 4 段階)

【第 4 段階】 配列\$food の中身を foreach で種別ごとに、順番に表示します。

■種別：fruits

商品名：apple ／ 価格：220 円

商品名：banana ／ 価格：110 円

商品名：strawberry ／ 価格：490 円

商品名：grape ／ 価格：550 円

商品名：kiwi ／ 価格：160 円

■種別：vegetable

商品名：cabbage ／ 価格：130 円

商品名：carrot ／ 価格：80 円

商品名：greenPepper ／ 価格：120 円

商品名：eggplant ／ 価格：160 円

商品名：pumpkin ／ 価格：240 円